

田村のつぶやき 第24号

2024.5.21 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

「枯れた木に花咲くより、生木に花咲くに驚け」

これは、江戸時代（18世紀）に活躍した思想家・自然哲学者である三浦梅園（みうら ばいえん、1723年～1789年）の言葉です。本職は医者であり、豊後国（現在の大分県国東市）の出身です。帆足万里（ほあし ばんり、1778年～1852年）・広瀬淡窓（ひろせ たんそう、1782年～1856年）と並んで「豊後の三賢人」と称されます。ちなみに、帆足万里は、豊後国日出藩出身の儒学者であり、日出藩の家老も務めた人物です。広瀬淡窓は、江戸時代の儒学者・漢詩人として有名で、豊後国日田の人。後に咸宜園（かんぎえん）という塾も開き、教育者としても活躍した人物です。

三浦梅園は、幼い頃より「日は東より出て、西に入る」といった天地万物の営みを当たり前とせず、その事実に強い疑問を抱き続けました。特定の学派に属さず、独学のすえ「天地万物はみな一つの根本から現れているもので、その現れ方には決まった条理(筋道)がある」という哲学体系である「条理学」(じょうりがく)を構築しました。梅園は自らの思想をまとめた『玄語』(げんご)・『贅語』(ぜいご)・『敢語』(かんご)を著し、これらの著作は、彼自身によって「梅園三語」と命名され、この三著作が梅園の思想の骨格をなすものです。

さて、タイトルにある「枯れた木に花咲くより、生木に花咲くに驚け」という言葉ですが、これはつまり、当たり前のように見えることがいかに奇跡的かということを表した言葉です。枯れた木に花が咲いたら、誰もが驚きます。しかし、生きている木に花が咲くことこそ驚くべきことではないのか、と梅園は言っているのです。私たちは、生きた木に花が咲くことは、当たり前としか見る事ができません。けれども、その当たり前は当たり前ではないはずで、花だけではありません。私たちが過ごしている今日この1日の生活も、命でさえも、決して当たり前ではないのです。今あるすべては、過去との繋がりがあったからこそ成り立っています。今日のこの1日は決して当たり前ではないのです。木に花が咲くという、一見当たりの自然の摂理、それは実は奇跡のような自然の摂理です。そうした自然の摂理のもと、長い地球の歴史の中で、生きながらえてきた命もあれば、滅びていった命もありました。日々をなんとなく過ごしていると、生きた木に花が咲くことは、当たり前としか見る事ができません。梅園が今から250年以上も前に残したこの言葉を、私たちもあらためてかみしめてみてはいかがでしょうか？

【中間単元テスト】

5月14日(火)～16日(木)の中間単元テストへ向けての取組はどうだったでしょうか。計画的に学習に取り組めましたか。思うような点数が取れましたか。返却された答案を必ず見直して、何が理解できていなかったのか、どこで間違えたのか、きちんと振り返り(復習)をしておこう。前号の「先輩からのメッセージ」も今一度読んで欲しい。

(次に続く)

4つのC：「Challenge」(挑戦) 「Collaboration」(協働) 「Critical Thinking」(批判的思考) 「Communication」(対話)

【生徒総会・家庭クラブ総会】

5月20日(月)に生徒総会(生徒会役員引き継ぎ)、家庭クラブ総会が開催されました。新役員のもと生徒主体の活発な活動を期待しています。

【県総体壮行式】

同じく5月20日(月)には、県総体の壮行式も行いました。各部のキャプテンから大会に向けての決意表明があり、生徒・教職員全員で選手諸君の応援をしました。

※県総体日程及び会場(詳しい試合日程等は、各部顧問より連絡します)

ハンドボール	5月31日(金)～6月1日(土)	松江東高校
ソフトボール	5月31日(金)～6月1日(土)	安来高校
ソフトテニス	5月30日(木)～6月1日(土)	浜山公園テニスコート
バレーボール	5月30日(木)～6月1日(土)	県立体育館、浜田市内高校体育館
空手道	5月31日(金)～6月1日(土)	松江南高校

上記大会のほか、5月末から6月上旬にかけての時期には、野球石見地区大会(大田)、水球中国五県対抗(山口)、石見地区絵画コンクール(江津)、生活科学部発表会(出雲)、西部地区吹奏楽祭(浜田)なども予定されています。

【PTA総会】

今年度は、教職員の働き方改革の一環として、従来土曜日の午後に設定していたPTA総会を、平日午後の開催(5月14日)に変更させていただきました。平日午後という時間設定にも関わらず、ご出席いただきました保護者の皆様、ありがとうございました。